

令和4年度 東京都立三鷹中等教育学校 学校経営報告

校長 藤野 泰郎

1 本年度の総括

令和4年度は、引き続き新型コロナウイルス感染防止対策の影響を受けつつも、宿泊行事をはじめ当初予定していた学校行事の多くを実施することができ、徐々に正常な教育活動の実施に向け動き出すことができた。一時は体験学習等の減少から、それぞれ具体的教育目標の達成は厳しいかと思われたが、東京都教育委員会の施策・事業を最大限に活用し、予算措置や物的支援を受けることにより、目的を明確にした教育活動を実践することができた。さらに、ICT機器の活用による授業力の向上やコロナ禍での生徒の安全安心を確保した各種行事の実施など、教職員一人一人が力を発揮し、一枚岩になって危機に立ち向かったことにより、多くの数値目標を達成することができた。

2 本年度の取組目標と方策

(1) 教育活動の目標と方策

①6年間を見通した教育課程の編成と特色ある教育を推進する。(学習指導)

→ICT機器を活用した遠隔授業の実施や反転授業の導入及び遠隔授業時の主体的・対話的で深い学びを積極的に導入し、授業時数の確保、生徒の学力向上、理解の浸透を促進した。

②将来の在り方・生き方を見据えた、系統的・継続的キャリア教育を行う。(進路指導)

→ステージ論文全体の指導計画を大きく見直し、「探究」として生徒の学ぶ意欲を引き出すとともに、高度な学問研究に魅力を感じさせ、学術的論考として質の高い論文集を作成させた。

③規範意識を高め、発達段階に応じた生活指導を充実させ、心身の健康維持も図る。(生活指導)

→時間を守ること、挨拶の励行、礼儀正しい態度や身だしなみ、集団生活でのマナーを身に付けさせること、ウイルス感染予防対策の徹底(清掃、消毒等)、教育相談の充実など、きめの細かい生活指導を通して、基本的な生活習慣の一層の確立に努めた。

④国際理解教育を推進し、グローバルな視野の育成を図る。(国際理解教育)

→昨年度に引き続き、台湾・オーストラリアとのオンラインによる生徒間国際交流の実施に加え、3ヵ月にわたるフランスからの留学生の受け入れ、UAE短期留学生の受け入れ・歓迎会・授業体験・部活動体験の実施、東京都教育委員会主催のUAE派遣研修への生徒の派遣、姉妹校の屏東高級中学の英語学習発表会への参加・受入れ・授業体験・部活動体験の実施、海外ボランティア研修(ニュージーランド)など多方面に向けた交流活動を実施することができた。

⑤ICT機器を活用した幅広い教育活動を展開する。(授業改善)

→ICT機器を活用した各教科・科目における反転授業の導入や「探究」論文の作成、探究発表会プレゼンテーションの準備など生徒の学習活動の充実を努めた。また、テスト問題自動採点システムによる効率化に伴って教員の生徒対応時間の増加や生徒の理解力を深めるための電子教科書の導入を開始できた(英語科・数学科)。

3 指導の重点目標と具体的取組の成果

(1) 令和4年度の重点目標

① 学習指導

(ア) 前期課程の月曜補習は15講座以上開講し、年間18週以上実施する。

(イ) 後期課程の放課後補習は、年間20週以上実施する。

(ウ) 前期課程及び第5学年では、夏季休業日中に1週間の補習週間(20時間)を実施する。また、第6学年を中心とした講習・補習講座を各長期休業日中に合計100講座以上実施する。さらに、第4学年、第5学年では長期休業日中に2泊3日の勉強合宿を実施する。

(エ) 校内研修会を年間2回以上、授業研究を年間12回以上実施する。

(オ) 年間18回以上の授業公開と年間1回の道徳授業地区公開講座を実施する。

② 生活指導・生徒相談活動

(ア) 学校事故発生件数0を目指す。

- (イ) セーフティ教室を年間2回、安全指導を年間12回（避難訓練・防災訓練4回を含む）実施する。
- (ウ) 生徒相談連絡会を年間4回実施する。
- (エ) 部活動加入率を90%以上とする。
- (オ) 自殺予防対策として、専門的知識を身に付け、生徒のサインを見逃さないようにするため、専門家を講師として招聘した校内研修を年間1回以上実施する（SOSの出し方に関する教育推進）。また、企画調整会議（職員会議も同様）において管理職からSOSの出し方に関する教育を推進する内容の情報提供を行う。
- (カ) 体罰の禁止についての教員研修を行う。

③ 進路指導

- (ア) センター試験実受験者を98%以上とする。
- (イ) 難関国立大学（東大・京大・東工大・一橋大）志望生徒のグループを形成して受験対策を行い、現役合格者数を10人以上とし、うち東大合格者数を3名以上とする。また、現役国公立大学合格者数を55人以上、同医学部に2名以上合格させる。
- (ウ) 難関私立大学（早大・慶大・上智大・東理大）志望生徒のグループを形成して受験対策を行い、現役合格者数を120人以上とする。
- (エ) GMARCH（学習院大・明大・青学大・立大・中大・法大）現役合格者数を100人以上とする。
- (オ) 第6学年についてケース会議を年4回以上実施するとともに、後期課程では年間複数回の模擬試験及び結果検討会を実施する。
- (カ) ファースト、セカンド、サードステージの各発表会をICT機器等を活用し、それぞれ年1回開催するとともに、全員の論文を冊子にまとめ発表する。
- (キ) 第3、4学年において、学年による大学訪問をそれぞれ年1回実施するとともに、夏季休業日中にオープン・キャンパス訪問を行う。
- (ク) 延べ60社以上の事業所と連携し、第1学年で職場見学、第2学年で職場体験をそれぞれ年1回実施する。第2学年においては、職場体験とSDGsについて考察したステージ論文の発表会を開催する。

④ グローバル人材の育成

- (ア) 海外高校生等を招いての国際交流を年3回以上実施する。
- (イ) 校内留学を冬季・春季休業日中にそれぞれ3日間実施し、参加生徒を60人以上確保する。
- (ウ) 海外ボランティア研修を春季休業日中にアメリカ合衆国・ニュージーランドにおいて実施し、参加生徒数を計70人以上とする。
- (エ) 第5学年において海外修学旅行を実施し、海外における学術的交流を1日実施する。
- (オ) 前期課程修了時点における英検準2級以上の取得率を80%以上とする。
- (カ) 後期課程は、全員GTEC（Advanced）4技能試験を受験、第4学年修了時にCEFR-JにおいてB1-1が60%、第5学年修了時にB1-2が60%、第6学年卒業時ではB1-2が70%に到達させる。
- (キ) 海外姉妹校との交流の一環として、台湾からの短期ステイを実現する。
- (ク) 海外からの留学生（大学・大学院生）に、日本の伝統・文化や歴史について英語で説明しながら東京を散策する東京グローバル遠足を、第6学年の学年行事として実施する。

⑤ 特色ある教育活動、上記以外の指定校・推進校の取組

基本計画に則り、教育活動の特色化を図るとともに、生徒に体験的学習をより多角的に行わせ、東京都教育委員会事業の成果を検証する。

- (ア) 第1学年から第4学年まで朝読書を毎日実施し、生徒一人当たりの年間読書冊数を最低25冊以上とするとともに、図書館の年間利用者数を4,000人以上、貸出冊数を9,000冊以上とする。
- (イ) 教科ごとに電子教科書の活用について指導結果報告を一つ以上作成し、個人では、反転授業、遠隔授業の授業実践報告を行い、冊子として刊行する。
- (ウ) 模擬選挙（第3学年「社会」）、憲法出前授業・税務教室・模擬裁判員体験・財務教育プログラム（第4学年「文化科学Ⅱ」）などの特別授業を、弁護士会・税務署・財務省など外部機関と連携し、それぞれ年1回実施する。
- (エ) 書評合戦（第1学年「文化科学Ⅰ」、第4学年「国語総合」）を実施し、全国大会に出場する。
- (オ) 「算額」及び統計の基本を学ぶ。（第2学年「自然科学Ⅰ」）
- (カ) 科学の祭典において10位以内に入賞する。JAXA等との連携による特別講座年1回以上実施するとともに、科学的施設視察1回以上（地域企業、JAXA等との連携）

- (キ) ファーストステージにおいて職場体験とSDGsについて考察したこと、セカンドステージにおいて学術的な初歩研究、サードステージにおいて持続可能な社会づくりに関する論文(未来構想図)を作成するとともに発表会を実施し、全生徒の論文を冊子として記録・保存する。(全学年「人生設計学(総合的な探究の時間)」)
- (ク) スポンサー・ウォークとして、「拝島」駅から本校まで、歴史や環境問題等を考えながら歩き、自ら課した目標の達成感を味わわせるとともに、体力の向上を図り、完歩した際は、慈善活動団体等に寄付するチャリティー活動に取り組む。(第3学年 学年行事)
- (ケ) 「学校2020レガシー」を活用し、特にパラスポーツを通して特別支援学校との連携を深める(年3回)。「オリンピック・パラリンピック教育アワード校」ことでスポーツとの多様な関わり方を学び、体力向上を図る。

⑥ 学校経営、業務の効率化、教職員のライフ・ワーク・バランス

(ア) 募集対策

- ㊦ 学校見学会・説明会への参加者数を延べ5,000人、授業公開への参加者数を延べ1,800人以上とする。
- ㊧ 授業公開の土曜日にミニ学校説明会を各日2回実施する。
- ㊨ 応募倍率を6.0倍以上とする。
- (イ) 若手教員を中心に、授業や特別活動、分掌業務に関する2人一組のOJTを、3組以上実施する。
- (ウ) 企画調整会議、職員会議等の会議をペーパーレス化するとともにすべての教員が電子起案を実施する。
- (エ) すべての職員が夏季休暇の完全取得、管理職は年15日以上、教員は年10日以上、年次有給休暇を取得する。(ライフ・ワーク・バランスの推進)
- (オ) 全ての教職員が完全休養する学校閉庁日を5日以上設ける。(週休日及び年末年始の閉庁日を除く)
- (カ) 学校設定教科「探究」及びビステージ論文作成のため、PTを編成し効果的な研究活動を行う。
- (キ) 「TOKYOデジタルリーディングハイスクール(TOKYO教育DX推進校)」のため、PTを編成し効果的な研究活動を行う。

(2) 具体的取組の成果と課題

項	番	項目	目標数値	結果
①	(ア)	前期課程の月曜補習	15講座以上開講、年18週以上実施	各回15講座以上開講 年18回実施
	(イ)	前期課程及び第5学年の補習 第6学年を中心とした講習・補習講座 第4学年・第5学年の勉強合宿(2泊3日)	夏季休業日中1週間の補習週間(20時間)実施 長期休業日中に合計100講座以上実施	夏季休業日中1週間の補習週間(20時間)実施 長期休業日中に合計56講座実施 勉強合宿は夏季・冬季長期休業中に実施
	(ウ)	校内研修会 授業研究	年間2回以上 年間12回以上	統合型校務支援システムに関する校内研修:2回 特別支援教育に関する校内研修:2回 初任研・中堅研 12回実施
	(エ)	授業公開 道徳授業地区公開講座	年間18回以上 年間1回	外部向け14回、保護者向け7回実施 授業担当者による研究授業・校内研修として実施(10/5)
②	(ア)	学校事故発生件数	0件	0件
	(イ)	セーフティ教室 安全指導	年間2回 年間12回(避難訓練・防災訓練4回を含む)	2回実施 12回実施
	(ウ)	生徒相談連絡会	年間4回	4回実施(教員研修会も合わせて実施)
	(エ)	部活動加入率	90%以上	前期:94% 後期:90%
	(オ)	自殺予防対策	専門家の講師による校内研修を年間1回以上	1回実施(精神科医による校内研修会)
③	(ア)	共通テスト実受験者	98%以上	99%
	(イ)	現役難関国立大学合格者 現役国公立大学合格者 国立大学医学部合格者	10人以上(東大3名以上) 55人以上 2人以上	9人(東大5人) 45人 2人
	(ウ)	現役難関私立大学合格者(早慶上理)	120人以上	127人
	(エ)	現役GMARCH合格者	270人以上	231人
	(オ)	第6学年ケース会議 後期課程における模擬試験及び結果検討会	年4回以上 各回実施	4回実施 2回実施
	(カ)	各ステージ論文作成・発表(⑥(キ)同様)	各1回	各ステージでポスター及び論文作成、ポスターセッション形式で本発表・中間発表の2回実施
	(キ)	第3、4学年大学訪問 夏季休業日中のオープン・キャンパス訪問	年1回 1回以上	0回(大学側の受入体制の未整備により) 1回
	(ク)	第1学年職場見学	延べ60社以上の事業所連携	延べ76社の事業所連携

		第2学年職場体験	職場見学・体験各年1回 職場体験発表会	職場見学・体験各年1回 職場体験発表会
④	(ア)	海外高校生等招聘による国際交流	年3回以上	年2回実施 (UAE・屏東)
	(イ)	校内留学	冬季・春季休業日中にそれぞれ3日間 実施 参加生徒60人以上	年2回実施 そのうち1回は1年生全員参加 参加生徒 10月:161人 3月:32人
	(ウ)	海外ボランティア研修	春季休業日中USA・NZにて実施 参加生徒70人以上	春季休業中NZにて実施 人数制限により、校内選考を実施 参加生徒30名
	(エ)	第5学年海外修学旅行	海外における学校交流1日	(新型コロナウイルス感染対策のため中止)
	(オ)	英検準2級以上の取得率(前期課程修了時)	80%以上	76%
	(カ)	後期課程、全員GTEC(Advanced) 4技能試験の受験 (CEFR-Jに換算)	第4学年修了時 B1-1:60% 第5学年修了時 B1-2:60% 第6学年卒業時 B1-2:70%	33% 45% 64%
	(キ)	姉妹校交流の充実	短期ステイの実施	(新型コロナウイルス感染対策のため中止)
	(ク)	東京グローバル遠足	第6学年実施	(新型コロナウイルス感染対策のため中止)
⑤	(ア)	朝読書 図書館年間利用者数 年間貸出冊数	毎日実施・1年間25冊以上 4,000人以上 9,000冊以上	毎日実施 9,639人 8,921冊
	(イ)	ICT機器を活用した東京都教育委員会指 定事業	教科:電子教科書活用等	TOKYODX 推進校事業 C4th ログデータの活用 電子教科書活用
	(ウ)	模擬選挙(第3学年「社会」) 憲法出前授業・模擬裁判員体験 (第4学年「文化科学II」) 税務教室(第4学年「文化科学II」) 財務教育プログラム(第4学年「文化科学 II」)	三鷹市選挙管理委員会と連携した授 業1回以上 東京弁護士会と連携した授業1回以 上 税理士会と連携した授業1回以上 財務省と連携した授業1回以上	実施(12/7) 実施(7/13) 実施(12/15) 実施(11/17)
	(エ)	書評合戦 (第1学年「文化科学I」、第4学年「国語 総合」)	全国高校ビブリオバトル出場 全国中学ビブリオバトル出場	全国高校ビブリオバトル東京都予選出場 全国中学ビブリオバトル東京都予選 試験前 のため欠場
	(オ)	「算額」(第2学年「自然科学I」)	全国的なコンテスト出品上位入賞	一関博物館主催「和算に挑戦」上級の部「最優 秀賞」
	(カ)	科学的思考力の向上(理数研究校)	JAXA等との連携による特別講座 年1回以上 科学的施設視察1回以上 科学の祭典10位以内入賞	大学や専門機関との連携:6回実施 箱根フィールドワーク実施 伊豆大島フィールドワーク実施 情報通信研究機構見学 全体16位(数学分野:2位 情報分野:7位)
	(キ)	キャリア教育の充実・ステージ論文作成・発 表	第1・2学年(ファーストステージ) 職場体験とSDGsについて考察論 文 第3・4学年(セカンドステージ) 学術的な初歩研究論文 第5・6学年(サードステージ) 持続可能な社会づくりに関する論文 (未来構想図) 全ステージ全員分の論文集作成	全てのステージ(ファースト・セカンド・サ ード)の探究発表において、ポスターセッション 形式により全ての生徒が発表活動を行うと ともに、全ての生徒が論文を執筆した。 特に、サードステージ(5年)では、全ての生 徒に対して全ての教員がメンターとなり探究 活動の指導及び支援・助言を行い、論文完成に 導いた。
	(ク)	スポンサード・ウォーク(第3学年実施)	全員完歩・寄付金納付	第3学年実施。255,000円トルコ大地震等
	(ケ)	オリンピック・パラリンピック教育推進	特別支援学校との連携年3回 パラスポーツ体験学習	エンジョイ・スポーツ・プロジェクトとしてア ルティメット、ボクササイズ・ダブルタッチな どの新しい競技の体験活動を行った。
	⑥	(ア)	㊦学校見学会・学校説明会参加者数 授業公開参加者数 ㊧ミニ学校説明会 ㊨応募倍率	延べ5,000人以上 延べ1,800人以上 授業公開の土曜日各2回 6.0倍以上
(イ)		若手人材育成OJT	3組6人実施	授業観察や分掌業務OJTを実施
(ウ)		ペーパーレス会議 電子起案	年間実施(A4判8万枚削減) 全員が実施	タブレットPCを活用(紙媒体資料なし) 全ての教職員が実施
(エ)		夏季休暇 年次有給休暇取得	全教職員完全取得 管理職15日以上・教職員10日以上	全ての教職員が5日間取得
(オ)		学校閉庁日	5日間設定	5日間実施
⑦	(ア)	今年度の具体的項目(重点項目)に記載のない事項		<ul style="list-style-type: none"> ■オンライン国際交流実施(NZ・台湾他) ■即興型英語ディベート大会への出場 英語スピーチコンテストへの出場 ■部活動の活性化 バドミントン部:全日本ジュニア選手権大会 東京都大会ベストエイト

			鉄道研究部:全国大会ベストクリエイティブ賞 ■海外向け学校紹介映像の制作 ■ホームページ更新回数 458 回
--	--	--	--